

目的 近年子どもの発育が目立ち、*proportion*も欧米並みに近くなってきた感がある。年1回発表される文部省の保健統計調査の報告にもその結果が実証されているが、子どもの体型の形態的变化や、発育推移及び被服構成に必要な資料は意外に乏しい現状である。そこで何としても自分の手で体型の推移を把握し、確信のもてる裏付けを得たいとその方法について模索し続けてきた。今回、一時期に撮影された単像写真かかりの数量を入手できたため、本研究に取り組むことになった。

方法 資料は、横浜Y.M.C.Aに通う満4歳から12歳の男・女児計1273名の単像写真により、2次元の平面計測を実施し、各年齢による発育推移をヒラえ、その中で幼児がどのような位置付けを示しているかを確認した。2次元の平面計測は、明らかに多くの難点を含まれることを承知している。子どもの場合は、被検者の立位姿勢にも問題があり、カメラの位置やレンズの種類・距離などによる誤差も指摘されよう。しかし、子どもの体型観察は他の方法を試みたとしても、多くの困難が予測されることは明確である。

結果 自動体型測定装置による*silhouette*の2次元の平面計測なので、誤差による問題点や計測部位にも当然限度があり、10項目実施した計測値に対する信頼性も勿論疑問を含むことは確かである。しかし、対象*model*数の豊富さにより、個体差がいかによりかを再認識し、男女差や年齢差が計測項目により判然と解明され、年齢による発育推移が、顕著な成長曲線として表われた長径項目と、幅径項目に於ける発育様相の対比など、今後の衣服設計との関連を考へる重要な視点をつかみ得たと思われる。